

# 平成28年度 施策評価シート

## 1 施策の位置付け

基本戦略	B	住みよい持続可能な地域の創造
重点プロジェクト	3	産業振興と就業環境の創出
施策	1	基幹産業の育成・支援
目的	本市の経済を牽引している製造業分野の企業や創業者に対して、創業や経営に関する各種支援を行なうことによって、地域内での雇用創出と経済効果の安定を図ります。	

## 2 施策の指標における成果

指標	単位	基準値		達成値			目標値	
		H24	H26	H27	H28	H29	H29	
統計	4人以上事業所製造業従業者 1人当たり製造品出荷額等	円	5,200万	-	-			5,500万
統計	4人以上事業所1社当たり 粗付加価値額	円	8億3,900万	-	-			8億5,000万
統計	製造業における市内事業所数	事業所	424	-	-			430
統計	製造業における従業員数	人	10,291	-	-			10,500
統計	ICT企業創業件数	件	-	3(H24-26)	0			4
市民	製造業に活気があると感じる市民の割合	%	-	26.9	26.9			35.0
市民	新規起業や新事業の立ち上げを支援する体制が整っていると 感じる市民の割合	%	-	16.1	13.6			25.0
その他 成果								

## 3 施策を構成する事務事業の評価(取り組み別)

取り組み②	企業誘致の推進								
手段	地域経済の活性化と雇用の創出を図るため、野村桔梗ヶ原地区の土地区画整理事業を支援し、企業誘致の受け皿となる産業団地の整備を促進します。								
番号	施策を構成する事務事業名	担当課	事業費			重点化	方向性		
			H27	H28	H29		成果	コスト	記号
1	土地利用促進事業(野村桔梗ヶ原地区)	都市計画課 まちづくり推進課	17,766	53,773	58,300	◎	拡充	維持	②

## 4 施策の評価

### ○ 事中評価

評価視点	評価コメント
(1) 事業構成の適正性	・事務事業の構成変更なし。 ・地域経済の活性化と雇用の創出のために、工業用地を創出することが必要であり、H28年3月に野村桔梗ヶ原地区土地区画整理組合設立準備組合を設立した。これにより準備会からの技術支援申請が提出されH28年度から準備会への支援を行い、事業の具現化に務める必要がある。
(2) 事業の重点化	・本地区の土地利用促進については長年の課題であり、地権者のやる気を削ぐことのないように重点化により事業の促進を図る必要がある。
(3) 役割分担の妥当性	・組合設立までの支援を行うものであり、組合設立後は、組合施工土地区画整理事業として地権者等が主体となって事業を推進するものである。

### ○ 事後評価

(4) 施策指標の分析	
-------------	--

作成者	所属 建設事業部まちづくり推進課	職名 課長	氏名 高木 哲也
評価者	所属 建設事業部	職名 事業部長	氏名 百瀬 孝仁

平成28年度 事務事業評価シート

○実施計画

事務事業名	土地利用促進事業(野村桔梗ヶ原地区)				担当課	まちづくり推進課						
概要	対象:	事業予定地所有者、産業用地への立地意向のある企業				体系	B-3-1-2					
	手段:	測量・事業計画及び定款の作成支援等、換地設計・工事・換地計画等に対する技術支援、補助金交付				新/継	継続					
	意図:	産業用地を確保し、土地の有効活用を図る。				区分	ハード					
年度別事業内容	平成27年度(1年次)				平成28年度(2年次)				平成29年度(3年次)			
	○まちづくり協議会への支援(調査設計)				○組合設立準備会への支援(調査設計)				○組合設立準備会への支援(調査設計)			
事業費	決算額	(千円)	17,766	予算額	(千円)	53,773	計画額	(千円)	58,300			
			17,766			53,773	事業計画作成、権利調査、想定換地		37,000	43,900		
							測量、調査、工事設計基本設計		19,700	14,400		
							連結都計道基本設計		1,600			
	特定	0	一般	17,766	特定	0	一般	53,773	特定	0	一般	58,300

○評価指標

評価指標	H27			H28			H29		
	中間値(事中評価)	実績値(事後評価)	目標値	中間値(事中評価)	実績値(事後評価)	目標値	中間値(事中評価)	実績値(事後評価)	目標値
地権者会・役員会開催数	5	11	9	4		15			15
企業ヒアリング実施数	7	13	21	4		5			5

○事中評価

評価視点												今後の方向性						
妥当性				有効性				効率性				成果の方向性	④		②		①	
1	2	3	④	1	②	3	4	1	②	3	4		現状維持		③		⑤	
低い	やや低い	やや高い	高い	低い	やや低い	やや高い	高い	低い	やや低い	やや高い	高い		縮小		⑥			
総合評価判定				総合評価				⑦		皆減			縮小	現状維持		拡大		
A:計画どおりに事業を進めることが適当 B:事業の進め方の改善の検討 C:事業規模・内容・主体の見直し検討 D:事業の統合・休廃止の検討				B														
当年度開始後、約6ヶ月が経過し新たに生じた問題等												H28.3月に野村桔梗ヶ原土地区画整理組合設立準備会が立ち上がり、組合設立及び事業認可に向けて進んでいる。未同意者数名の対応及び実現性の高い事業計画案の策定が課題となっている。また、市街化編入スケジュールは、国・県の影響により編入時期が確定しないため、事業認可も遅れる見込みである。						
新年度の予算要求事項(改革・改善案)												事業計画案の作成にあたり、詳細な事業フレーム及び減歩率の算定が必要であるため、内容の精査を行う。また、連結都市計画道路の基本設計の追加を行う。						
第1次評価コメント												要求どおりとする。						
第2次評価コメント												特になし						

○事後評価

区分	年間(4月~3月)										
取組内容											
成果											
課題											

作成担当者	部課等	建設事業部まちづくり推進課	職名	主任	氏名	濱 泰之	連絡先(内線)	1293
最終評価者	部課等	建設事業部まちづくり推進課	職名	課長	氏名	高木 哲也	連絡先(内線)	1290

# 平成28年度 施策評価シート

## 1 施策の位置付け

基本戦略	B	住みよい持続可能な地域の創造
重点プロジェクト	4	地域資源を生かした交流の推進
施策	1	観光産業の育成・支援
目的	集客核となる地域資源に対して、施設やインフラの整備及び修繕を行うとともに、地域資源の掘り起こし、観光客と市民の交流支援、国際化への対応等を行うことで、外国人も含めた観光客の市内への滞在時間の延伸を図ります。	

## 2 施策の指標における成果

指標	単位	基準値		達成値			目標値
		H25	H26	H27	H28	H29	H29
統計	観光消費額(地点別)	円	902,986千	-	918,210千		950,000千
統計	交流人口(観光客入込数)	人	1,002千	-	940千		1,050千
統計	交流人口(広域観光客入込数)	人	13,184千	-	-		14,000千
統計	外国人宿泊者数(奈良井宿)	人	1,000	-	1,000		1,200
市民	塩尻市の特徴を生かした観光メニューが充実していると感じる市民の割合	%	-	27.4	37.0		30.0
市民	外国人も含めた観光客のおもてなし、受入体制が整っていると感じる市民の割合	%	-	13.7	12.5		15.0
その他 成果							

## 3 施策を構成する事務事業の評価(取り組み別)

取り組み①	集客核の環境整備の推進								
手段	本市の観光の核となるエリアや施設等について、滞留、滞在時間の延長につながる施設整備や既存施設の修繕等を推進します。								
番号	施策を構成する事務事業名	担当課	事業費			重点化	方向性		
			H27	H28	H29		成果	コスト	記号
1	街なみ環境整備事業	まちづくり推進課	119,833	197,704	107,881 60,900	○	拡充	拡大	①

## 4 施策の評価

### ○ 事中評価

評価視点	評価コメント
(1) 事業構成の適正性	・事務事業の構成変更なし。 ・平成29年度事業完了を目指し実施しているが、国の補助金配分が縮小され事業進捗に遅れが出たことにより、平成29年度は最終年度であり、前年度縮小分を増額し事業の進捗を図る。
(2) 事業の重点化	・平沢地区へ観光客等の流入を促進する為、町並み景観形成の整備向上と住環境の改善を図り早期完了を目指す必要がある。
(3) 役割分担の妥当性	・環境が整備された後は、地域が主体的に観光客等の誘導を図るため検討会議を実施する。 ・公園整備の完了後は、平沢地区が主体的に管理することとし市と管理協定の締結をする。

### ○ 事後評価

(4) 施策指標の分析	
-------------	--

作成者	所属 建設事業部まちづくり推進課	職名 課長	氏名 高木 哲也
評価者	所属 建設事業部	職名 事業部長	氏名 百瀬 孝仁

平成28年度 事務事業評価シート

○実施計画

事務事業名	街なみ環境整備事業			担当課	まちづくり推進課				
概要	対象:	地域住民及び来街者			体系	B-4-1-1			
	手段:	町並みに調和した道路の整備及び豪雨災害に対応できる排水路整備等			新/継	継続			
	意図:	「木曾漆器」の産業文化を活かした活気あるまちづくりを促進し、安心して生活し、だれもが住みたくなるまちづくりを推進する。			区分	ハード			
年度別事業内容	平成27年度(1年次)			平成28年度(2年次)			平成29年度(3年次)		
	○工事費 ○補償費			○工事費 ○補償費 ○用地費			○工事費 ○補償費		
財源	決算額	(千円)	119,833	予算額	(千円)	197,704	計画額	(千円)	107,881
			119,833			197,704	工事費		60,900
							補償費		107,881
	特定	119,419	一般	414	特定	197,704	一般	0	0

○評価指標

評価指標	H27			H28			H29		
	中間値 (事中評価)	実績値 (事後評価)	目標値	中間値 (事中評価)	実績値 (事後評価)	目標値	中間値 (事中評価)	実績値 (事後評価)	目標値
街なみ環境整備事業の進捗率	54	59	59	79		82			100

○事中評価

評価視点											今後の方向性						
妥当性				有効性				効率性				成果の方向性	拡充	④	②	①	
1	2	③	4	1	②	3	4	1	2	③	4		現状維持	③	⑤		
低い	やや低い	やや高い	高い	低い	やや低い	やや高い	高い	低い	やや低い	やや高い	高い		縮小	⑥			
総合評価判定				総合評価				C					休廃止	⑦			
A: 計画どおりに事業を進めることが適当 B: 事業の進め方の改善の検討 C: 事業規模・内容・主体の見直し検討 D: 事業の統合・休廃止の検討											皆減				縮小	現状維持	拡大
											コスト投入の方向性						
当年度開始後、約6ヶ月が経過し新たに生じた問題等											平成28年度の国費内示額は約72%であり、計画とおりに事業終了出来るかどうか未定である。						
新年度の予算要求事項(改革・改善案)											計画とおりに平成29年度事業完了を目指し国へ要望していく。 小公園の舗装等の仕上げと、東町裏線の排水路整備工事を検討する。。						
第1次評価コメント											過去7割となっている内示見通しに合わせた規模とし、H29年度に事業を完了すること。また、過疎債は補助裏への充当とすること。内示に合わせた執行とし、小公園の仕様、防犯灯工事、裏線の路盤工、JR線法面処理等の内容の精査を進めるとともに、補助対象・適債性を再度確認すること。						
第2次評価コメント											企画政策部長査定の通り、他区・地区と比べ過剰とならないよう小公園のトイレ等事業内容を再度精査すること。						

○事後評価

区分	年間(4月~3月)
取組内容	
成果	
課題	

作成担当者	部課等	建設事業部まちづくり推進課	職名	課長補佐	氏名	小松 嘉由	連絡先(内線)	1291
最終評価者	部課等	建設事業部まちづくり推進課	職名	課長	氏名	高木 哲也	連絡先(内線)	1290

平成28年度 施策評価シート

1 施策の位置付け

基本戦略	B	住みよい持続可能な地域の創造
重点プロジェクト	4	地域資源を生かした交流の推進
施策	2	新たな交流・集客の推進
目的	都市部をはじめとする市外在住者を対象に、地域資源を生かした交流・集客の機会を創出するとともに、市民や来訪者の交流を促す場を整備すること等を通じて、スポーツ・文化・商業・コミュニティー等の活性化を図ります。	

2 施策の指標における成果

指標	単位	基準値		達成値			目標値
		H25	H26	H27	H28	H29	H29
市民	中心市街地に月2回以上訪れる市民の割合	%	-	54.2	58.4		70.0
市民	中心市街地への来街者が2時間以上滞在する割合	%	-	20.3	19.5		23.0
市民	歴史文化遺産を活用した交流活動が盛んに行われていると感じる市民の割合	%	-	28.6	29.6		30
統計	短歌フォーラムへの投稿者数	人	16,452	-	17,072		17,000
統計	姉妹都市からの来訪者数	人	336	-	288		340.0
その他成果							

3 施策を構成する事務事業の評価(取り組み別)

取り組み②	中心市街地のにぎわい創出支援
手段	新たな出会いや活躍の場、魅力や価値を感じることができる場として、中心市街地の機能向上を図る、様々なまちづくり機関を支援します。

番号	施策を構成する事務事業名	担当課	事業費			重点化	方向性		
			H27	H28	H29		成果	コスト	記号
1	まちなか環境整備事業	まちづくり推進課	9,005	11,401	予算対応		維持	縮小	③
2	市街地活性化推進事業	まちづくり推進課	752	819	予算対応		維持	維持	⑤
3	ウイングロード管理事業	まちづくり推進課	46,191	52,567	28,800 42,900	◎	維持	縮小	③

取り組み③	広丘駅周辺の整備
手段	広丘駅周辺を「北部地域拠点」に位置付け、地域のコミュニティー活動を促進するとともに、北部地域の交流拠点となる施設を整備します。

番号	施策を構成する事務事業名	担当課	事業費			重点化	方向性		
			H27	H28	H29		成果	コスト	記号
1	北部地域拠点整備事業	まちづくり推進課	30,192	21,906	500,100 494,300	◎	維持	維持	⑤
2	広丘駅東口駐車場事業	まちづくり推進課	3,613	予算対応	予算対応		維持	維持	⑤

4 施策の評価

○ 事中評価

評価視点	評価コメント
(1) 事業構成の適正性	・両地区とも事務事業の構成変更なし。
(2) 事業の重点化	・ウイングロードビルは、建設から24年が経過し冷暖房設備の耐用年数の経過とフロン抑制規正法による空調設備の改修が必要になるため重点的に整備する必要がある。また、北部地域拠点整備は、老朽化と手狭になった現在の広丘支所・公民館を早急に改修する必要があるため、財源を確保し地域に誇れる施設として完成を目指す。
(3) 役割分担の妥当性	・中心市街地においては、商工会議所、振興公社、まちづくり会社等と街元気連絡会を開催し情報提供等連携を取りながら街中再生や賑わいの創出等市街地の活性化に継続して取り組む。また、広丘駅周辺整備では、地元関係者や有識者で構成された北部地域拠点施設整備検討委員会や広丘地域づくり振興会と北部拠点施設の整備や今後の施設利用方法等に対し継続して連携し取り組む。

○ 事後評価

(4) 施策指標の分析	
-------------	--

作成者	所属 建設事業部まちづくり推進課	職名 課長	氏名 高木 哲也
評価者	所属 建設事業部	職名 事業部長	氏名 百瀬 孝仁

平成28年度 事務事業評価シート

○実施計画

事務事業名	まちなか環境整備事業			担当課	まちづくり推進課					
概要	対象:	中心市街地の来街者				体系	B-4-2-2			
	手段:	歩行空間を意識した道路整備、にぎわい空間整備、景観ガイドライン作成				新/継	継続			
	意図:	市街地の活性化とにぎわいの創出を推進する				区分	ハード			
年度別事業内容	平成27年度(1年次)			平成28年度(2年次)			平成29年度(3年次)			
	○サイン整備 ○ウイングロード東側広場駐車場の整備 ○空間デザイン負担金(H26国補正)			○イベント広場整備 ○空間デザイン負担金			○ウイングロード東側広場駐車場の整備負担金 ○空間デザイン負担金			
	決算額	(千円)	9,005	予算額	(千円)	11,401	計画額 (千円)			
	サイン整備		4,136			11,401	予算対応			
	WR東側広場駐車場の整備		3,168							
	空間デザイン負担金		1,701							
	特定	7,156	一般	1,849	特定	9,100	一般	2,301	特定	一般

○評価指標

評価指標	H27			H28			H29		
	中間値 (事中評価)	実績値 (事後評価)	目標値	中間値 (事中評価)	実績値 (事後評価)	目標値	中間値 (事中評価)	実績値 (事後評価)	目標値
サイン整備	0	1	1						
ポケットパーク整備		0		0		1			

○事中評価

評価視点												今後の方向性				
妥当性				有効性				効率性				成果の方向性	拡充	④	②	①
1	2	③	4	1	②	3	4	1	②	3	4		現状維持	③	⑤	
低い	やや低い	やや高い	高い	低い	やや低い	やや高い	高い	低い	やや低い	やや高い	高い		縮小	⑥		
総合評価判定				総合評価				B					休廃止	⑦		
A: 計画どおりに事業を進めることが適当 B: 事業の進め方の改善の検討 C: 事業規模・内容・主体の見直し検討 D: 事業の統合・休廃止の検討												皆減	縮小	現状維持	拡大	
当年度開始後、約6ヶ月が経過し新たに生じた問題等												広場整備の目玉としてウッドデッキの整備を計画したが、予算の不足により実現させることが大変厳しい状況である。その為、整備面積等内容の変更を行い予算の範囲内で実現可能な広場を整備する。				
新年度の予算要求事項(改革・改善案)												平成27年度から実施している「空間デザインガイドライン策定事業」については、しおじり街元気カンパニーに業務委託をしております。				
第1次評価コメント												要求どおりとする。				
第2次評価コメント												—				

○事後評価

区分	年間(4月~3月)		
取組内容			
成果			
課題			

作成担当者	部課等	建設事業部まちづくり推進課	職名	主任	氏名	唐澤 嘉男	連絡先(内線)	1292
最終評価者	部課等	建設事業部まちづくり推進課	職名	課長	氏名	高木 哲也	連絡先(内線)	1290

平成28年度 事務事業評価シート

○実施計画

事務事業名	市街地活性化推進事業				担当課	まちづくり推進課								
概要	対象:	市街地の来街者				体系	B-4-2-2							
	手段:	まちづくり総務に関わる事務の実施、歩行者等交通量調査(大門・広丘)				新/継	継続							
	意図:	市街地の活性化とにぎわいの創出を推進する				区分	ソフト							
年度別事業内容	平成27年度(1年次)				平成28年度(2年次)				平成29年度(3年次)					
	○歩行者等交通量調査の実施 ○まちづくり会議等への支援				○歩行者等交通量調査の実施 ○まちづくり会議等への支援				○歩行者等交通量調査の実施 ○まちづくり会議等への支援					
	予算額 (千円)				計画額 (千円)				計画額 (千円)					
	753				819				予算対応					
特定		7,156	一般		1,849	特定		9,100	一般		2,301	特定		一般

○評価指標

評価指標	H27			H28			H29		
	中間値 (事中評価)	実績値 (事後評価)	目標値	中間値 (事中評価)	実績値 (事後評価)	目標値	中間値 (事中評価)	実績値 (事後評価)	目標値
歩行者等通行量調査実施回数	1	2	2	1		2			2

○事中評価

評価視点												今後の方向性					
妥当性				有効性				効率性				成果の方向性	拡充	④	②	①	
1	2	③	4	1	2	③	4	1	2	③	4		現状維持	③	⑤	↳	
低い	やや低い	やや高い	高い	低い	やや低い	やや高い	高い	低い	やや低い	やや高い	高い		縮小	⑥			
総合評価判定				総合評価				A					休廃止	⑦			
A: 計画どおりに事業を進めることが適当 B: 事業の進め方の改善の検討 C: 事業規模・内容・主体の見直し検討 D: 事業の統合・休廃止の検討												皆減	縮小	現状維持	拡大		
												コスト投入の方向性					
当年度開始後、約6ヶ月が経過し新たに生じた問題等		事業実施後の効果測定として行っている交通量調査について、本年度は9月と2月に実施する。今後は、過去からストックされたデータの活用や調査場所の精査も必要である。															
新年度の予算要求事項(改革・改善案)		事業の効果測定に必要な調査であり、現状どおり事業を実施する。															
第1次評価コメント		特になし															
第2次評価コメント		—															

○事後評価

区分	年間(4月~3月)			
取組内容				
成果				
課題				

作成担当者	部課等	建設事業部まちづくり推進課	職名	課長補佐	氏名	曾根原 博	連絡先(内線)	1292
最終評価者	部課等	建設事業部まちづくり推進課	職名	課長	氏名	高木 哲也	連絡先(内線)	1290

平成28年度 事務事業評価シート

○実施計画

事務事業名	ウイングロード管理事業				担当課	まちづくり推進課						
概要	対象:	市街地の来街者				体系	B-4-2-2					
	手段:	商業機能・子育て支援機能を維持するための設備改修				新/継	継続					
	意図:	市街地の活性化とにぎわいの創出を推進する				区分	ハード					
年度別事業内容	平成27年度(1年次)				平成28年度(2年次)				平成29年度(3年次)			
	○設備改修の実施				○設備改修の実施				○設備改修の実施			
財源	決算額	(千円)	46,191		予算額	(千円)	72,567		計画額	(千円)	28,800	
			46,191				72,567		設備改修負担金		20,000	
									フロン設備点検(定期)		1,000	
	特定	9,500	一般	36,691	特定	9,500	一般	63,067	特定	0	一般	28,800
												7,800
												22,900

○評価指標

評価指標	H27			H28			H29		
	中間値 (事中評価)	実績値 (事後評価)	目標値	中間値 (事中評価)	実績値 (事後評価)	目標値	中間値 (事中評価)	実績値 (事後評価)	目標値
設備改修の実施	1	1	1	0		1			

○事中評価

評価視点												今後の方向性						
妥当性				有効性				効率性				成果の方向性	④		②		①	
1	2	3	④	1	②	3	4	1	2	3	④		現状維持	③	⑤			
低い	やや低い	やや高い	高い	低い	やや低い	やや高い	高い	低い	やや低い	やや高い	高い		縮小	⑥				
総合評価判定				総合評価				A					休廃止	⑦				
A:計画どおりに事業を進めることが適当 B:事業の進め方の改善の検討 C:事業規模・内容・主体の見直し検討 D:事業の統合・休廃止の検討												皆減		縮小	現状維持		拡大	
												コスト投入の方向性						
当年度開始後、約6ヶ月が経過し新たに生じた問題等		空調設備の実施設計が概ね完了し、発注方法及び財源確保に関し調整を進めていなかで、区分所有者との改修にかかる費用負担の調整が課題となっている。また、補助金の確保についても、予定している補助金はの採択率が全体の4割と低く、非常に厳しい状況である。																
新年度の予算要求事項(改革・改善案)		空調設備改修工事費の負担金については、区分所有者の意思表示により、補助金や事業費に影響があるため、比較検討を十分行い予算要求する。そのほかに、通常の小破修理やその他設備機器等の改修工事については、必要最低限の予算措置とする。																
第1次評価コメント		空調改修の緊急性は高いが、リース会社と共同で補助申請する主体変更(市→振興公社)に伴う法的な適否や権利関係を再度整理すること。また、区分所有者との調整や、テナントとの賃料調整方法等を検討し、再度提案すること。																
第2次評価コメント		財産区分の変更等整理とともに、区分所有者やテナントと調整を行い、事業を進めること。																

○事後評価

区分	年間(4月~3月)										
取組内容											
成果											
課題											

作成担当者	部課等	建設事業部まちづくり推進課	職名	課長補佐	氏名	曾根原 博	連絡先(内線)	1292
最終評価者	部課等	建設事業部まちづくり推進課	職名	課長	氏名	高木 哲也	連絡先(内線)	1290



平成28年度 事務事業評価シート

○実施計画

事務事業名	北部地域拠点整備事業				担当課	まちづくり推進課						
概要	対象:	北部地域の市民及び来街者				体系	B-4-2-3					
	手段:	北部地域の行政サービス拠点、子育て支援世代が安心して利用できる場、コミュニティ活動の場、地域特性を活かす活動の場として施設を整備する				新/継	継続					
	意図:	北部地域市民の知恵の交流の場を創造する				区分	ハード					
年度別事業内容	平成27年度(1年次)				平成28年度(2年次)				平成29年度(3年次)			
	○基本計画策定 ○用地測量 ○建物調査、不動産鑑定				○基本設計 ○地質調査				○実施設計 ○建物等補償 ○用地買収 ○建物解体			
財源	決算額	(千円)	30,192	予算額	(千円)	21,906	計画額	(千円)	500,100			
			30,192			21,906	494,300		51,300			
							実施設計委託料		49,300			
							建物等補償費		278,000			
							用地費		260,000			
							建物補償再算定委託料		156,000			
							建物解体費		185,000			
							建物補償再算定委託料		4,000			
							建物解体費		10,800			
	特定	20,700	一般	12,802	特定	4,000	一般	17,906	特定	470,100	一般	30,000

○評価指標

評価指標	H27			H28			H29		
	中間値 (事中評価)	実績値 (事後評価)	目標値	中間値 (事中評価)	実績値 (事後評価)	目標値	中間値 (事中評価)	実績値 (事後評価)	目標値
北部地域拠点整備事業の進捗率	2	2	2	3		4			37

○事中評価

評価視点												今後の方向性						
妥当性				有効性				効率性				成果の方向性						
1	2	3	④	1	②	3	4	1	2	③	4		④	②	①	レ		
低い	やや低い	やや高い	高い	低い	やや低い	やや高い	高い	低い	やや低い	やや高い	高い		③	⑤				
													⑥					
総合評価判定						総合評価						⑦	コスト投入の方向性					
A:計画どおりに事業を進めることが適当 B:事業の進め方の改善の検討 C:事業規模・内容・主体の見直し検討 D:事業の統合・休廃止の検討						C						皆減	縮小	現状維持	拡大			
当年度開始後、約6ヶ月が経過し新たに生じた問題等		本年度は施設の設計者を公募型プロポーザル方式により選定し、現在は基本設計を進めている。事業の進捗状況はスケジュールどおりであり、今後は基本設計と並行して地質調査を行う。来年度以降スケジュールどおり事業を進めるために、今年度中には収用事業認定を受ける。また、補助金の確保については社会資本整備総合交付金の目途が立った。																
新年度の予算要求事項(改革・改善案)		本年度実施している基本設計の成果に基づき、事業費の再精査を行う。																
第1次評価コメント		要求どおりとする。																
第2次評価コメント		特になし																

○事後評価

区分	年間(4月~3月)
取組内容	
成果	
課題	

作成担当者	部課等	建設事業部まちづくり推進課	職名	事務員	氏名	荻上 真功	連絡先(内線)	1292
最終評価者	部課等	建設事業部まちづくり推進課	職名	課長	氏名	高木 哲也	連絡先(内線)	1290

平成28年度 事務事業評価シート

○実施計画

事務事業名	広丘駅東口駐車場事業				担当課	まちづくり推進課				
概要	対象:	広丘駅を利用する市民及び来街者				体系	B-4-2-3			
	手段:	広丘駅東口駐車場の運営				新/継	継続			
	意図:	通勤又は通学する市民の利便性の確保、公共交通機関の利用促進、道路交通の円滑化を図る				区分	ソフト			
年度別事業内容	平成27年度(1年次)			平成28年度(2年次)			平成29年度(3年次)			
	○広丘駅東口駐車場の運営管理			○広丘駅東口駐車場の運営管理			○広丘駅東口駐車場の運営管理			
	予算額 (千円)			計画額 (千円)			計画額 (千円)			
	3,614			4,024			予算対応			
	特定	3,614	一般	0	特定	4,024	一般	0	特定	一般

○評価指標

評価指標	H27			H28			H29		
	中間値 (事中評価)	実績値 (事後評価)	目標値	中間値 (事中評価)	実績値 (事後評価)	目標値	中間値 (事中評価)	実績値 (事後評価)	目標値
駐車台数(台/日)	43	52	71	99		71			71

○事中評価

評価視点												今後の方向性					
妥当性				有効性				効率性				成果の方向性	拡充	④	②	①	
1	2	③	4	1	2	③	4	1	2	③	4		現状維持	③	⑤	④	
低い	やや低い	やや高い	高い	低い	やや低い	やや高い	高い	低い	やや低い	やや高い	高い		縮小	⑥			
総合評価判定				総合評価				A					休廃止	⑦			
A: 計画どおりに事業を進めることが適当 B: 事業の進め方の改善の検討 C: 事業規模・内容・主体の見直し検討 D: 事業の統合・休廃止の検討													皆減	縮小	現状維持	拡大	
当年度開始後、約6ヶ月が経過し新たに生じた問題等				オープンから1年半が経過し、徐々に住民に周知され、利用台数が順調に伸び目標値に達している。今後についても、更にニーズが高く、満車で駐車できない時間帯が多くなると市民の不満も増えてくる予想される。													
新年度の予算要求事項(改革・改善案)				実態に合わせた予算要求を行う。													
第1次評価コメント				特になし													
第2次評価コメント				—													

○事後評価

区分	年間(4月~3月)									
取組内容										
成果										
課題										

作成担当者	部課等	建設事業部まちづくり推進課	職名	課長補佐	氏名	曾根原 博	連絡先(内線)	1292
最終評価者	部課等	建設事業部まちづくり推進課	職名	課長	氏名	高木 哲也	連絡先(内線)	1290

平成28年度 施策評価シート

1 施策の位置付け

基本戦略	B	危機管理の強化と社会基盤の最適活用
重点プロジェクト	6	防災・減災の推進
施策	1	防災体制・防災活動拠点の強化
目的	市が保有する施設や設備の耐震化、雪害や地震に備えた都市インフラの防災・減災対策、市民の自主防災活動の支援等を通じて、火事などの人災の発生抑制と自然災害発生時の被害の最小化に努めます。	

2 施策の指標における成果

指標	単位	基準値		達成値			目標値
		H25	H26	H27	H28	H29	
統計	防災訓練実施件数	区	-	36	34		66
統計	地区避難所運営マニュアルの策定数	地区	-	1	1		10
統計	デジタル移動系防災行政無線の整備率	%	-	0.0	100		100.0
統計	消防団員の充足率	%	-	99.0	100.0		100.0
市民	地域において自主防災組織の活動が活発に行われていると感じる市民の割合	%	-	50.9	40.7		52.0
市民	消防・救命救急活動が迅速かつ適切に行われていると感じる市民の割合	%	-	57.6	50.7		59.0
その他 成果							

3 施策を構成する事務事業の評価(取り組み別)

取り組み④	自然災害対策の推進								
手段	気候変動に起因する自然災害に対応するため、危険箇所や想定被害の把握に努めるとともに、水害対策や河川の整備、砂防や急傾斜地、雨水排水施設の整備などの適切な対策を講じていきます。								
番号	施策を構成する事務事業名	担当課	事業費			重点化	方向性		
			H27	H28	H29		成果	コスト	記号
1	除雪対策事業	建設課	353,394	48,050	予算対応		維持	縮小	③
2	排水路整備事業	建設課	33,745	30,000	0 20,000	○	維持	縮小	③
3	河川改修事業	建設課	2,379	2,470	予算対応				
4	河川改修事業諸経費	建設課	282	615	予算対応				
5	河川維持諸経費	建設課	2,208	2,666	予算対応				

取り組み⑤	住宅等の耐震化の促進及びライフライン等の耐震化の推進								
手段	耐震化が進んでいない住宅の所有者に対して耐震補強工事の実施を促すとともに、補助金交付などを行います。また、上下水道施設の耐震化の整備を推進します。								
番号	施策を構成する事務事業名	担当課	事業費			重点化	方向性		
			H27	H28	H29		成果	コスト	記号
1	耐震対策等事業	都市計画課	15,227	24,525	19,917 17,200		維持	縮小	③
2	市営住宅耐震診断整備事業	建設課	-	-	10,000 14,000		-	-	-
3	建築確認等事務諸経費	都市計画課	661	917	予算対応		-	-	-

取り組み⑥	安全な道路環境の整備								
手段	道路の安全対策を進め、安全で安心な道路環境を整備します。通学路の危険箇所について、学校や警察、保護者との合同点検を実施し、安全対策を推進します。								
番号	施策を構成する事務事業名	担当課	事業費			重点化	方向性		
			H27	H28	H29		成果	コスト	記号
1	歩道整備事業	建設課	43,944	101,500	106,500 107,000	◎	拡充	縮小	④
2	交通安全施設整備事業	建設課	23,897	23,900	10,000				

4 施策の評価

○ 事中評価

評価視点	評価コメント
(1) 事業構成の適正性	・事務事業の構成変更なし
(2) 事業の重点化	・歩道整備事業は、緊急性の高い路線を追加し事業推進を図る。 ・市営住宅耐震診断整備事業は、長寿命化計画の今後の市営住宅のあり方を含めた精度の高い見直しを行う。 ・除雪対策事業は、降雪作業軽減のためロータリー除雪車の検討を行ない、重要性の高い排水路整備・交通安全対策整備事業も継続する。 ・排水路整備はH28国補正予算を活用して集中的に実施する。
(3) 役割分担の妥当性	・除雪対策事業は、引き続き市民による除雪を要請する。 ・その他の事業もこれまで同様とする。

○ 事後評価

(4) 施策指標の分析	
-------------	--

作成者	所属 建設事業部建設課	職名 課長	氏名 上條 宏幸
作成者	所属 建設事業部都市計画課	職名 課長	氏名 塩原 恒明
評価者	所属 建設事業部	職名 事業部長	氏名 百瀬 孝仁

平成28年度 事務事業評価シート

○実施計画

事務事業名	除雪対策事業		担当課	建設課		
概要	対象:	市民及び市外からの来訪者			体系	B-6-1-4
	手段:	除雪作業及び融雪剤散布作業、除雪協力助成金の交付			新/継	継続
	意図:	市民の冬期間の交通安全の確保と安心なまちづくりを推進する。			区分	ハード
年度別 事業内容	平成27年度(1年次)		平成28年度(2年次)		平成29年度(3年次)	
	○除雪作業委託料 ○重機借上料 ○補修用資材 ○除雪機購入 ○散布機購入 ○除雪協力助成金		○除雪作業委託料 ○重機借上料 ○補修用資材 ○散布機購入 ○除雪協力助成金		○除雪作業委託料 ○重機借上料 ○補修用資材 ○散布機購入 ○除雪協力助成金	
財源	決算額	(千円) 353,394	予算額	(千円)	計画額	(千円)
		353,394		予算対応		予算対応
	特定	110,371	一般	243,023	特定	一般

○評価指標

評価指標	H27			H28			H29		
	中間値 (事中評価)	実績値 (事後評価)	目標値	中間値 (事中評価)	実績値 (事後評価)	目標値	中間値 (事中評価)	実績値 (事後評価)	目標値
除雪機購入台数	1	1	1						
散布機購入台数	2	2	2	2	2	2			1

○事中評価

評価視点												今後の方向性					
妥当性				有効性				効率性				成果 の 方向 性	拡充		④	②	①
1	2	③	4	1	2	③	4	1	②	3	4		現状維持		③	⑤	
低い	やや 低い	やや 高い	高い	低い	やや 低い	やや 高い	高い	低い	やや 低い	やや 高い	高い		縮小		⑥		
総合評価判定				総合評価				B					休廃止	⑦			
A: 計画どおりに事業を進めることが適当 B: 事業の進め方の改善の検討 C: 事業規模・内容・主体の見直し検討 D: 事業の統合・休廃止の検討												コスト投入の方向性					
当年度開始後、約6ヶ月が経過し新たに生じた問題等		今年度納入する散布機は自然流下式の散布機であるが、自然流下式の散布機は降雪中の作業時に雪等の水分により凍結防止剤が固まり、詰まりやすいため、詰まりを解消するのに無駄な時間を取られてしまうとの意見が請負業者から寄せられている。今後はベルトコンベア式等に変更し、作業の効率化を図る必要がある。															
新年度の予算要求事項(改革・改善案)		除排雪作業費用削減のため、ロータリー除雪車の購入又はリースを検討する必要がある。															
第1次評価コメント		提案のとおり、費用の多くを占める排雪費用の削減方法について検討を進めること。															
第2次評価コメント		—															

○事後評価

区分	年間(4月~3月)	
取組内容		
成果		
課題		

作成担当者	部課等	建設事業部建設課	職名	主事	氏名	百瀬 優人	連絡先(内線)	1257
最終評価者	部課等	建設事業部建設課	職名	課長	氏名	上條 宏幸	連絡先(内線)	1250

平成28年度 事務事業評価シート

○実施計画

事務事業名	排水路整備事業				担当課	建設課						
概要	対象: 市民及び市外からの来訪者				体系	B-6-1-4						
	手段: 排水路の整備と改修を行う。				新/継	継続						
	意図: 市民の安全な生活環境をつくる。				区分	ハード						
年度別事業内容	平成27年度(1年次)				平成28年度(2年次)				平成29年度(3年次)			
	○排水路整備工事 ○南熊井郷原線				○排水路整備工事 ○南熊井郷原線				○排水路整備工事			
財源	決算額 (千円)		33,745		予算額 (千円)		30,000		計画額 (千円)		0	
			33,745		排水路整備工事 南熊井郷原線 (H29分前倒し)		20,000 10,000 30,000		排水路整備工事		20,000 0 20,000	
	特定	31,306	一般	2,439	特定	28,200	一般	1,800	特定	0	一般	0
									18,000	2,000		

○評価指標

評価指標	H27			H28			H29		
	中間値 (事中評価)	実績値 (事後評価)	目標値	中間値 (事中評価)	実績値 (事後評価)	目標値	中間値 (事中評価)	実績値 (事後評価)	目標値
排水路整備工事箇所数	13	23	20	8		20			15

○事中評価

評価視点												今後の方向性				
妥当性				有効性				効率性				成果の方向性				
1	2	③	4	1	②	3	4	1	②	3	4		④	②	①	
低い	やや低い	やや高い	高い	低い	やや低い	やや高い	高い	低い	やや低い	やや高い	高い		現状維持	③	⑤	
													⑥			
総合評価判定				総合評価								コスト投入の方向性				
A: 計画どおりに事業を進めることが適当 B: 事業の進め方の改善の検討 C: 事業規模・内容・主体の見直し検討 D: 事業の統合・休廃止の検討				A								皆減 縮小 現状維持 拡大				
当年度開始後、約6ヶ月が経過し新たに生じた問題等		近年のゲリラ豪雨により、浸透柵で対応出来ないケースが多く、冠水被害に繋がっている。雨水渠への接続が急務である。														
新年度の予算要求事項(改革・改善案)		周辺の舗装改良工事に合わせながら排水路整備を実施しているため、計画通りの予算確保が必要となる。特に平成28年度は塩尻地区都市再生整備計画事業が最終年となるため、平成29年度以降は地方道路等整備事業債を活用する予定である。														
第1次評価コメント		H29分は都市再生整備計画事業の国補正を活用して前倒しとし、H30以降については事業規模の見直しを行うこと。														
第2次評価コメント		—														

○事後評価

区分	年間(4月~3月)
取組内容	
成果	
課題	

作成担当者	部課等	建設事業部建設課	職名	主事	氏名	小林 貴裕	連絡先(内線)	1256
最終評価者	部課等	建設事業部建設課	職名	課長	氏名	上條 宏幸	連絡先(内線)	1250

平成28年度 事務事業評価シート

○実施計画

事務事業名	耐震対策等事業				担当課	都市計画課													
概要	対象:	昭和56年5月31日以前に着工された木造住宅の所有者、非木造住宅の所有者及び特定建築物の所有者、倒壊する危険のあるブロック塀等の所有者				体系	B-6-1-5												
	手段:	木造住宅の耐震診断を無料で実施し、耐震対策工事を行う者、非木造住宅及び特定建築物の耐震診断を行う者、ブロック塀等の撤去及び改修工事を行う者に対して補助を行う。				新/継	継続												
	意図:	地震に対する建築物の安全性の向上と災害に強いまちづくりを推進する。				区分	ソフト												
年度別事業内容	平成27年度(1年次)				平成28年度(2年次)				平成29年度(3年次)										
	○木造住宅耐震診断	92件	○木造住宅耐震診断	100件	○木造住宅耐震診断	114件	○木造住宅耐震対策工事補助	14件	○木造住宅耐震対策工事補助	14件	○特定建築物耐震診断補助	1件	○特定建築物耐震診断補助	3件	○非木造住宅耐震診断補助	6件	○ブロック塀等撤去工事補助	3件	○耐震診断意向調査ダイレクトメール
財源	決算額	(千円)	15,227	予算額	(千円)	24,525	計画額	(千円)	22,567	診断委託料	4,446	7,296	工事・診断補助金	15,117	15,117	意向調査費	154	154	
			15,227			24,525													
	特定	10,120	一般	5,107	特定	14,072	一般	10,453	特定	13,431	11,293	一般	9,136	8,424					

○評価指標

評価指標	H27			H28			H29		
	中間値 (事中評価)	実績値 (事後評価)	目標値	中間値 (事中評価)	実績値 (事後評価)	目標値	中間値 (事中評価)	実績値 (事後評価)	目標値
木造住宅耐震診断件数	91	92	35	90		100			114
木造住宅耐震対策工事件数	10	11	13	8		17			14

○事中評価

評価視点												今後の方向性					
妥当性				有効性				効率性				成果の方向性	拡充	④	②	①	
1	②	3	4	1	②	3	4	1	2	③	4		現状維持	③	⑤		
低い	やや低い	やや高い	高い	低い	やや低い	やや高い	高い	低い	やや低い	やや高い	高い		縮小	⑥			
総合評価判定				総合評価				C					休廃止	⑦			
A:計画どおりに事業を進めることが適当 B:事業の進め方の改善の検討 C:事業規模・内容・主体の見直し検討 D:事業の統合・休廃止の検討												皆減 縮小 現状維持 拡大					
当年度開始後、約6ヶ月が経過し新たに生じた問題等												コスト投入の方向性					
新年度の予算要求事項(改革・改善案)												木造住宅耐震対策工事補助について ・国費の交付決定額が要望額に対して低かったため、事業推進が図れなかった。 ・国費の変更交付申請(増額)をしたが、下半期は木造住宅耐震対策工事の推進は難しい。					
第1次評価コメント												要求のとおり、耐震対策工事補助については実績に合わせた件数の見直し等により、縮小とする。					
第2次評価コメント												—					

○事後評価

区分	年間(4月~3月)			
取組内容				
成果				
課題				

作成担当者	部課等	建設事業部都市計画課	職名	主査	氏名	米窪 政義	連絡先(内線)	1248
最終評価者	部課等	建設事業部都市計画課	職名	課長	氏名	塩原 恒明	連絡先(内線)	1240

平成28年度 事務事業評価シート

○実施計画

事務事業名	歩道整備事業		担当課	建設課								
概要	対象: 市民及び市外からの来訪者			体系	B-6-1-6							
	手段: 未整備区間の歩道整備を行う。			新/継	継続							
	意図: 歩行者の安全と安心を確保する。			区分	ハード							
年度別事業内容	平成27年度(1年次)		平成28年度(2年次)		平成29年度(3年次)							
	○君石野村線外 ○西条線		○君石野村線外 ○堰西えびの子通線 ○西条線 ○町区上西条線 ○町区上西条線 ○下西条町区線		○君石野村線外 ○西条線 ○町区上西条線 ○下西条町区線 ○八幡池東線							
財源	決算額	(千円)	43,944	予算額	(千円)	101,500	計画額	(千円)	106,500			
			43,944				君石野村線外	47,000				
							西条線	21,500				
							町区上西条線	20,000				
							町区上西条線	5,000				
							下西条町区線	37,000				
							下西条町区線	33,000				
							八幡池東線	3,000				
							八幡池東線	0				
	特定	42,150	一般	1,794	特定	96,900	一般	4,600	特定	96,400	一般	10,100

○評価指標

評価指標	H27			H28			H29		
	中間値 (事中評価)	実績値 (事後評価)	目標値	中間値 (事中評価)	実績値 (事後評価)	目標値	中間値 (事中評価)	実績値 (事後評価)	目標値
歩道整備延長(km)	0	0.1	0.1	0		0.54			0.9

○事中評価

評価視点												今後の方向性					
妥当性				有効性				効率性				成果の方向性	拡充		④	②	①
1	2	③	4	1	②	3	4	1	2	③	4		現状維持		③	⑤	
低い	やや低い	やや高い	高い	低い	やや低い	やや高い	高い	低い	やや低い	やや高い	高い		縮小		⑥		
総合評価判定				総合評価									休廃止	⑦			
A:計画どおりに事業を進めることが適当 B:事業の進め方の改善の検討 C:事業規模・内容・主体の見直し検討 D:事業の統合・休廃止の検討												皆減 縮小 現状維持 拡大 コスト投入の方向性					
当年度開始後、約6ヶ月が経過し新たに生じた問題等												平成24年度より行っている通学路合同点検において、児童・生徒が登下校で利用する通学路には危険箇所が多数あることが分かり、PTA、地元、学校関係者からも歩道整備の要望が非常に多い。					
新年度の予算要求事項(改革・改善案)												本事業は社会資本整備総合交付金を活用しているが、児童・生徒を含めた歩行者が危険にさらされている箇所が多数あり、通学路合同点検の状況を考慮すると事業費の増額が必要となる。					
第1次評価コメント												交付金内示の見直し及びサンセット方式の観点から、八幡池東線、町区上西条線の着手は認めない。西条線のは早期完了を目指し、H28国補正予算を活用し、一部前倒しとする。					
第2次評価コメント												八幡池東線は用地交渉の状況を見極めた上で適時の予算要求で対応とする。町区上西条線は長年の懸念箇所であるため、地形測量を進めることとする。優先順位と交付金の内示状況を勘案しながら事業を進めること。					

○事後評価

区分	年間(4月~3月)
取組内容	
成果	
課題	

作成担当者	部課等	建設事業部建設課	職名	主事	氏名	柳澤 洋太	連絡先(内線)	1255
最終評価者	部課等	建設事業部建設課	職名	課長	氏名	上條 宏幸	連絡先(内線)	1250

平成28年度 事務事業評価シート

○実施計画

事務事業名	交通安全施設整備事業				担当課	建設課						
概要	対象: 市民及び市外からの来訪者				体系	B-6-1-6						
	手段: 交通安全施設設置工事、通学路安全対策工事				新/継	継続						
	意図: 交通事故のない安全で快適な交通環境を整備する。				区分	ハード						
年度別事業内容	平成27年度(1年次)				平成28年度(2年次)				平成29年度(3年次)			
	○交通安全施設設置工事 ○通学路安全対策工事				○交通安全施設設置工事 ○通学路安全対策工事				○交通安全施設設置工事 ○通学路安全対策工事			
財源	決算額 (千円)		23,897	計画額 (千円)		23,900	計画額 (千円)		10,000		10,000	
			23,897			23,900	通学路安全対策工事				10,000	
							※その他の事業費は予算対応					
	特定	3,300	一般	20,597	特定	9,500	一般	14,400	特定	9,500	一般	500

○評価指標

評価指標	H27			H28			H29		
	中間値 (事中評価)	実績値 (事後評価)	目標値	中間値 (事中評価)	実績値 (事後評価)	目標値	中間値 (事中評価)	実績値 (事後評価)	目標値
通学路安全点検の箇所付けの改善率	70	90	100	50		100			100

○事中評価

評価視点												今後の方向性						
妥当性				有効性				効率性				成果の方向性	拡充		④	②	①	
1	2	3	④	1	2	③	4	1	2	③	4		現状維持		③	⑤	レ	
低い	やや低い	やや高い	高い	低い	やや低い	やや高い	高い	低い	やや低い	やや高い	高い		縮小		⑥			
総合評価判定				総合評価				A					休廃止	⑦				
A: 計画どおりに事業を進めることが適当 B: 事業の進め方の改善の検討 C: 事業規模・内容・主体の見直し検討 D: 事業の統合・休廃止の検討												皆減	縮小	現状維持	拡大	コスト投入の方向性		
当年度開始後、約6ヶ月が経過し新たに生じた問題等												本事業は社会資本整備総合交付金を活用しているが、近年要望に対する内示率が低くなってきている。						
新年度の予算要求事項(改革・改善案)												交通安全上欠かせない事業であることや、事故を未然に防止するためにも新たな財源の確保が必要である。						
第1次評価コメント												要求どおりとする。						
第2次評価コメント												—						

○事後評価

区分	年間(4月~3月)										
取組内容											
成果											
課題											

作成担当者	部課等	建設事業部建設課	職名	主事	氏名	小林 貴裕	連絡先(内線)	1256
最終評価者	部課等	建設事業部建設課	職名	課長	氏名	上條 宏幸	連絡先(内線)	1250



平成28年度 施策評価シート

1 施策の位置付け

基本戦略	B	危機管理の強化と社会基盤の最適活用
重点プロジェクト	6	防災・減災の推進
施策	2	都市インフラの長寿命化・再構築と公共施設等の維持管理の最適化
目的	道路、橋梁、上下水道、ごみ処理施設、公共施設等の適切な維持管理による長寿命化と長期的視点に立った統廃合等の検討を進め、適切な管理運営と施設配置を推進します。また、ごみの減量化やリサイクルを促進するとともに、民間が所有する空き家や空地の有効活用と都市基盤の集約化を進めます。	

2 施策の指標における成果

指標	単位	基準値		達成値			目標値
		H25	H26	H27	H28	H29	H29
統計	橋梁長寿命化修繕計画による修繕箇所数(橋梁)	箇所	-	16	17		18
統計	鉛製給水管の解消率	%	-	73.9	82.8		100.0
統計	長寿命化計画による管更生延長(ヒューム管・陶管)	m	-	88	88		796
統計	公共施設の除却、統合件数(累計)	施設	-	0	8		14
統計	ごみの資源化率	%	26.0	-	28.5		30.0%以上
市民	ごみの減量に向けた分別やリサイクルが盛んであると感じる市民の割合	%	-	69.6	69.4		75.0
市民	ごみ処理のための施設が整備されていると感じる市民の割合	%	-	53.3	58.6		55.0
統計	家庭系もえるごみ量(市民1人1日当たり)	g/人日	345	-	337		340
統計	事業系もえるごみ量	t/年	6,927	-	7,040		6,420
統計	塩尻駅北地区の区画整理事業の進捗度	%	-	0.0	2.7		7.4
統計	優良建築物等整備事業による集合住宅整備戸数	戸	-	0	0		18
その他 成果							

3 施策を構成する事務事業の評価(取り組み別)

取り組み①	道路・橋梁の老朽化対策の推進と公園施設の維持管理の最適化								
手段	道路・橋梁などの都市インフラの老朽化に伴い、低いコストで安全性を確保できるよう、長期的視点に立った計画的・体系的な点検及び補修を、民間事業者のノウハウを活用しながら実施します。また、老朽化した公園の施設について、公園施設長寿命化計画に基づき、遊具等の老朽化施設の計画的な更新、適正な維持管理を進めます。								
番号	施策を構成する事務事業名	担当課	事業費			重点化	方向性		
			H27	H28	H29		成果	コスト	記号
1	道路維持改良事業	建設課	90,488	103,996	45,135 <del>40,000</del>		拡充	拡大	①
2	道路維持補修事業	建設課	51,192	28,816	28,000 <del>48,600</del>		維持	縮小	③
3	道路施設長寿命化改修事業	建設課	133,907	124,500	159,700 <del>175,600</del>	○	拡充	縮小	④
4	公園等管理諸経費	都市計画課	78,784	72,143	4,500 <del>3,300</del>		拡充	拡大	①

取り組み⑤	コンパクトシティ化の推進等による居住環境の整備								
手段	まちなか居住のニーズを持った層の居住を促進するために、民間等が行う居住系再開発事業や様々な住まい方促進事業を支援するとともに、都市緑化や空き家等の適正管理により、居住環境の向上を図ります。また、コンパクトシティ化の推進と人口減少の抑制を図るため、塩尻駅北地区土地区画整理事業を支援し、定住人口の受け皿となる住宅地の整備を促進するとともに、都市計画道路の見直しや整備を推進します。								
番号	施策を構成する事務事業名	担当課	事業費			重点化	方向性		
			H27	H28	H29		成果	コスト	記号
1	まちなか居住推進事業	まちづくり推進課	9,900	52,300		△	拡充	維持	②
2	駅前駐輪場等管理事業	地域づくり課 まちづくり推進課	2,046	852	予算対応				
3	土地区画整理事業	まちづくり推進課	42,196	18,093	30,000 <del>34,400</del>	◎	維持	縮小	③
4	都市緑化推進事業	都市計画課	2,776	3,048	予算対応		縮小	縮小	⑥
5	都市計画道路見直し等策定事業	都市計画課	6,394	4,700	5,100		維持	縮小	③
6	都市計画道路整備事業	都市計画課	181,416	626,140	0 <del>89,400</del>		縮小	縮小	⑥
7	立地適正化計画策定事業	都市計画課		9,600	予算対応		維持	維持	⑤
8	全国都市緑化フェア	都市計画課		926	予算対応		拡充	拡大	①

4 施策の評価

○ 事中評価

評価視点	評価コメント
(1) 事業構成の適正性	・持続可能な都市の形成及び居住環境の向上を図るための事業であり、計画的な実施が求められている。 ・道路施設の長寿命化を図るため、早急な施設点検を行い、計画的な維持修繕等を行なう必要がある。 ・人口減少の抑制を図るため、定住人口の受け皿となる住宅地の整備を促進する必要がある。
(2) 事業の重点化	・都市計画道路整備事業については、H28国補正予算を活用して整備箇所を絞り込み集中して進める。 ・持続可能な都市を形成するため、立地適正化計画の策定に向けた調査を実施する。 ・道路施設点検として、トンネル点検実施を早期に対応を行いたい。 ・鯉川路橋の架け替え事業については生活道路整備事業に移行する。 ・まちなか居住推進事業、区画整理事業について規模縮小あるいは事業費精査によりコスト縮小となった。
(3) 役割分担の妥当性	・市民、区画整理組合、民間事業者との役割分担は各事業ともに変更なし。

○ 事後評価

(4) 施策指標の分析	
-------------	--

作成者	所属 建設事業部建設課	職名 課長	氏名 上條 宏幸
作成者	所属 建設事業部都市計画課	職名 課長	氏名 塩原 恒明
作成者	所属 建設事業部まちづくり推進課	職名 課長	氏名 高木 哲也
評価者	所属 建設事業部	職名 事業部長	氏名 百瀬 孝仁

平成28年度 事務事業評価シート

○実施計画

事務事業名	道路維持改良事業				担当課	建設課						
概要	対象:	市民及び市外からの来訪者				体系	B-6-2-1					
	手段:	道路維持改良工事、道路維持作業委託、道路パトロール委託				新/継	継続					
	意図:	市民の安全で安心な生活環境と交通環境を整備する。				区分	ハード					
年度別事業内容	平成27年度(1年次)				平成28年度(2年次)				平成29年度(3年次)			
	○道路維持改良工事 ○その他事業費 ・道路等清掃委託・街路樹剪定等委託 ・道路維持補修作業委託・重機借上料 ・補修用資材				○道路維持改良工事 ○その他事業費 ・道路等清掃委託・街路樹剪定等委託 ・道路維持補修作業委託・重機借上料 ・補修用資材				○道路維持改良工事 ○その他事業費 ・道路等清掃委託・街路樹剪定等委託 ・道路維持補修作業委託・重機借上料 ・補修用資材			
	決算額	(千円)	90,488	82,222	予算額	(千円)	103,996	45,135	計画額	(千円)	40,000	45,135
財源	90,488				103,996				45,135			
	道路維持改良工事				道路維持改良工事				道路維持改良工事			
	82,222 ※その他の事業費は予算対応				45,135 ※その他の事業費は予算対応				45,135 ※その他の事業費は予算対応			
特定	0	一般	82,222	特定	0	一般	45,135	特定	0	一般	45,135	

○評価指標

評価指標	H27			H28			H29		
	中間値 (事中評価)	実績値 (事後評価)	目標値	中間値 (事中評価)	実績値 (事後評価)	目標値	中間値 (事中評価)	実績値 (事後評価)	目標値
地元要望箇所の実施箇所数	19	46	25	28		25			25

○事中評価

評価視点												今後の方向性				
妥当性				有効性				効率性				成果の方向性	拡充	④	②	①
1	2	③	4	1	②	3	4	1	2	③	4		現状維持	③	⑤	
低い	やや低い	やや高い	高い	低い	やや低い	やや高い	高い	低い	やや低い	やや高い	高い		縮小	⑥		
総合評価判定				総合評価									休廃止	⑦		
A:計画どおりに事業を進めることが適当 B:事業の進め方の改善の検討 C:事業規模・内容・主体の見直し検討 D:事業の統合・休廃止の検討				C								皆減	縮小	現状維持	拡大	
当年度開始後、約6ヶ月が経過し新たに生じた問題等												特になし。				
新年度の予算要求事項(改革・改善案)												側溝整備・舗装補修等、地元要望が最も高い事業であるため、今後も計画的に整備を行う必要がある。				
第1次評価コメント												要求どおりとする。				
第2次評価コメント												—				

○事後評価

区分	年間(4月~3月)			
取組内容				
成果				
課題				

作成担当者	部課等	建設事業部建設課	職名	事務員	氏名	宮下 翔斗	連絡先(内線)	1257
最終評価者	部課等	建設事業部建設課	職名	課長	氏名	上條 宏幸	連絡先(内線)	1250

平成28年度 事務事業評価シート

○実施計画

事務事業名	道路維持補修事業				担当課	建設課						
概要	対象: 市民及び市外からの来訪者					体系	B-6-2-1					
	手段: 維持応急工事、街路樹根上防止工事、街路灯更新工事					新/継	継続					
	意図: 事故を未然に防止するため、安全で安心な道路環境を整備する。					区分	ハード					
年度別 事業内容	平成27年度(1年次)				平成28年度(2年次)				平成29年度(3年次)			
	○維持応急工事 ○贛川人路橋補修調査				○維持応急工事				○維持応急工事 56箇所			
財源	決算額	(千円)	51,192	予算額	(千円)	28,600	計画額	(千円)	28,600	48,600		
			51,192	維持応急工事		28,600	維持応急工事		28,600	贛川人路橋撤去費	20,000	
	特定	0	一般	51,192	特定	0	一般	28,600	特定	0	一般	28,600

○評価指標

評価指標	H27			H28			H29		
	中間値 (事中評価)	実績値 (事後評価)	目標値	中間値 (事中評価)	実績値 (事後評価)	目標値	中間値 (事中評価)	実績値 (事後評価)	目標値
緊急性を要する箇所の補修実施率	40		100	29		100			100

○事中評価

評価視点												今後の方向性				
妥当性				有効性				効率性				成果の 方向性	拡充	④	②	①
1	2	③	4	1	②	3	4	1	2	③	4		現状維持	③	⑤	
低い	やや低い	やや高い	高い	低い	やや低い	やや高い	高い	低い	やや低い	やや高い	高い		縮小	⑥		
総合評価判定				総合評価				C					休廃止	⑦		
A:計画どおりに事業を進めることが適当 B:事業の進め方の改善の検討 C:事業規模・内容・主体の見直し検討 D:事業の統合・休廃止の検討												皆減	縮小	現状維持	拡大	
												コスト投入の方向性				
当年度開始後、約6ヶ月が経過し新たに生じた問題等		贛川人路橋については、地元調整を図り、近隣の橋梁も含め、存続について検討することとした。														
新年度の予算要求事項(改革・改善案)		贛川人路橋の撤去費については、生活道路整備事業に組み替えたため減額とする。														
第1次評価コメント		要求どおりとする。														
第2次評価コメント		—														

○事後評価

区分	年間(4月~3月)										
取組内容											
成果											
課題											

作成担当者	部課等	建設事業部建設課	職名	事務員	氏名	宮下 翔斗	連絡先(内線)	1257
最終評価者	部課等	建設事業部建設課	職名	課長	氏名	上條 宏幸	連絡先(内線)	1250

平成28年度 事務事業評価シート

○実施計画

事務事業名	道路施設長寿命化改修事業			担当課	建設課						
概要	対象:	市民及び市外からの来訪者			体系	B-6-2-1					
	手段:	道路ストック総点検、橋梁長寿命化修繕計画に基づく定期点検及び見直し、道路アセットマネジメントに基づく舗装修繕			新/継	継続					
	意図:	効率的な改修を行い、事業費の平準化・ライフサイクルコストの低減化を実現する。			区分	ハード					
年度別事業内容	平成27年度(1年次)			平成28年度(2年次)			平成29年度(3年次)				
	○道路法橋梁等定期点検 ○橋梁長寿命化修繕 郷原橋・あさひ橋・日出塩跨線橋・広丘中央陸橋 ○主要幹線舗装修繕 南熊井郷原・東山山麓・岩垂世賀 ○主要幹線舗装修繕 昭通り線・いちよう通り線 ○道路法面・付属物補修工事 ○賛川メロヂイ橋補強工事			○道路法橋梁等定期点検(道路認定19橋・社資、認定外1橋・単費) ○橋梁長寿命化修繕 広丘中央陸橋・郷原橋・日出塩跨線橋 ○主要幹線舗装修繕 南熊井郷原・東山山麓 ○道路法面・付属物補修工事			○道路法橋梁等定期点検 ○橋梁長寿命化修繕 あさひ橋・広丘中央陸橋・郷原橋・日出塩跨線橋 ○主要幹線舗装修繕 南熊井郷原・東山山麓・国道緑ヶ丘団地北線・昭通り線・いちよう通り線 ○道路法面・付属物補修工事 ○トンネル定期点検				
財源	決算額	(千円)	133,907	予算額	(千円)	124,500	計画額	(千円)	159,700		
			133,907	長寿命化改修工事		124,500	長寿命化改修工事		159,700		
	特定	124,342	一般	9,565	特定	116,500	一般	8,000	特定	152,900	一般

○評価指標

評価指標	H27			H28			H29		
	中間値 (事中評価)	実績値 (事後評価)	目標値	中間値 (事中評価)	実績値 (事後評価)	目標値	中間値 (事中評価)	実績値 (事後評価)	目標値
橋梁長寿命化修繕計画実施箇所数	0	1	1	2		2			2
舗装修繕計画実施延長(km)	0.36	0.82	0.89	0.2		1.34			2.26

○事中評価

評価視点												今後の方向性					
妥当性				有効性				効率性				成果の方向性	拡充		④	②	①
1	2	③	4	①	2	3	4	1	②	3	4		現状維持		③	⑤	
低い	やや低い	やや高い	高い	低い	やや低い	やや高い	高い	低い	やや低い	やや高い	高い		縮小		⑥		
総合評価判定				総合評価				C					休廃止	⑦			
A: 計画どおりに事業を進めることが適当 B: 事業の進め方の改善の検討 C: 事業規模・内容・主体の見直し検討 D: 事業の統合・休廃止の検討												コスト投入の方向性					
当年度開始後、約6ヶ月が経過し新たに生じた問題等												今年度、高速道路を跨ぐ跨道橋(20橋)の道路法橋梁点検の業務委託を実施中である。防災・安全交付金の内示率が低く、市民や区長等から寄せられる舗装修繕の要望に応えられない状況にある。そのため、道路施設の健全度、安全性は年々低下するため、道路環境整備を計画的に行う必要がある。					
新年度の予算要求事項(改革・改善案)												道路法で規定された定期点検(道路橋・トンネル)について、平成30年度までに完了させる必要がある。高速道路、JR区間内作業に安全・仮設費を要し点検・補修費用が割高である。また交付金内示率が低く、予算措置に苦慮している。他の補修工事の実施時期がずれるなど影響があるため、事業費の増額が必要である。					
第1次評価コメント												広丘中央陸橋等をH28国補正予算を活用して前倒しとする。					
第2次評価コメント												特になし					

○事後評価

区分	年間(4月~3月)		
取組内容			
成果			
課題			

作成担当者	部課等	建設事業部建設課	職名	主任	氏名	柏原 禎磨	連絡先(内線)	1254
最終評価者	部課等	建設事業部建設課	職名	課長	氏名	上條 宏幸	連絡先(内線)	1250

平成28年度 事務事業評価シート

○実施計画

事務事業名	公園等管理諸経費				担当課	都市計画課						
概要	対象: 市民及び市外からの来訪者				体系	B-6-2-1						
	手段: 公園維持管理委託、公園整備工事				新/継	継続						
	意図: 安全で安心な市民憩いの場を確保する。				区分	ハード						
年度別 事業内容	平成27年度(1年次)				平成28年度(2年次)				平成29年度(3年次)			
	○公園整備工事 ○道の駅トイレ改修工事 ○その他事業 ・公園管理委託 ・公園高木剪定委託 ・公園設備点検委託				○公園施設更新工事及び修繕 ○その他事業 ・公園管理委託 ・公園高木剪定委託 ・公園設備点検委託				○公園施設更新工事及び修繕 ○その他事業 ・公園管理委託 ・公園高木剪定委託 ・公園設備点検委託			
	決算額 (千円) 78,784				予算額 (千円) 72,413				(千円) 4,500			
財源	78,784				72,413				公園施設更新工事及び修繕 3,300 公園トイレの洋式化(2基) 1,200			
	特定	20,900	一般	57,884	特定	11,400	一般	600	特定	0	一般	4,500

○評価指標

評価指標	H27			H28			H29		
	中間値 (事中評価)	実績値 (事後評価)	目標値	中間値 (事中評価)	実績値 (事後評価)	目標値	中間値 (事中評価)	実績値 (事後評価)	目標値
公園施設の長寿命化計画による進捗率	12%	35%	35%	35%		45%			55%

○事中評価

評価視点												今後の方向性						
妥当性				有効性				効率性				成果の 方向性	拡充		④	②	①	
1	②	3	4	1	②	3	4	1	②	3	4		現状維持		③	⑤		
低い	やや低い	やや高い	高い	低い	やや低い	やや高い	高い	低い	やや低い	やや高い	高い		縮小		⑥			
総合評価判定				総合評価				C					休廃止	⑦				
A: 計画どおりに事業を進めることが適当 B: 事業の進め方の改善の検討 C: 事業規模・内容・主体の見直し検討 D: 事業の統合・休廃止の検討												皆減	縮小	現状維持	拡大	コスト投入の方向性		
当年度開始後、約6ヶ月が経過し新たに生じた問題等												・トイレの設置及び公園トイレの洋式化の要望が高まっており、優先順位等含め事業化について検討する必要がある。 ・公園施設の破損及び老朽化による修繕費が増大している。						
新年度の予算要求事項(改革・改善案)												・上記、公園トイレ洋式化については、対応する国庫補助金がないため、単費での対応とな。 ・施設や遊具の更新を補助金の対象として整備を進めてきているため、長寿命化計画に乗った維持修繕を単費で行っていく必要がある。						
第1次評価コメント												要求どおりとする。						
第2次評価コメント												特になし						

○事後評価

区分	年間(4月～3月)										
取組内容											
成果											
課題											

作成担当者	部課等	建設事業部都市計画課	職名	技師	氏名	邑上 裕樹	連絡先(内線)	1242
最終評価者	部課等	建設事業部都市計画課	職名	課長	氏名	塩原 恒明	連絡先(内線)	1240

平成28年度 事務事業評価シート

○実施計画

事務事業名	まちなか居住推進事業				担当課	まちづくり推進課				
概要	対象:	良好な住宅を求めている市民及び市外からの移住希望者				体系	B-6-2-5			
	手段:	民間事業者による住環境整備を支援する				新/継	継続			
	意図:	中心市街地の居住人口の増加を図る				区分	ハード			
年度別事業内容	平成27年度(1年次)			平成28年度(2年次)			平成29年度(3年次)			
	○優良建築物等整備事業への補助			○優良建築物等整備事業への補助			○狭あい道路情報整備等事業の実施			
	決算額	(千円)	9,900	予算額	(千円)	52,300	計画額	(千円)		
			9,900	補助金(除却・建築)		52,300				
	特定	4,950	一般	4,950	特定	26,100	一般	26,200	特定	一般

○評価指標

評価指標	H27			H28			H29		
	中間値 (事中評価)	実績値 (事後評価)	目標値	中間値 (事中評価)	実績値 (事後評価)	目標値	中間値 (事中評価)	実績値 (事後評価)	目標値
民間事業者による集合住宅整備戸数	0	0	0	0		14			

○事中評価

評価視点												今後の方向性					
妥当性				有効性				効率性				成果の方向性	④			②	①
1	2	③	4	1	②	3	4	1	②	3	4		現状維持	③		⑤	
低い	やや低い	やや高い	高い	低い	やや低い	やや高い	高い	低い	やや低い	やや高い	高い		縮小	⑥			
総合評価判定				総合評価				B					休廃止	⑦			
A:計画どおりに事業を進めることが適当 B:事業の進め方の改善の検討 C:事業規模・内容・主体の見直し検討 D:事業の統合・休廃止の検討												皆減		縮小	現状維持	拡大	
												コスト投入の方向性					
当年度開始後、約6ヶ月が経過し新たに生じた問題等		国庫補助金の内示額により、事業進捗に影響があるため、事業採択時は慎重な調整が必要。															
新年度の予算要求事項(改革・改善案)		新規採択箇所なし															
第1次評価コメント		特になし。															
第2次評価コメント		—															

○事後評価

区分	年間(4月~3月)			
取組内容				
成果				
課題				

作成担当者	部課等	建設事業部まちづくり推進課	職名	課長補佐	氏名	曾根原 博	連絡先(内線)	1292
最終評価者	部課等	建設事業部まちづくり推進課	職名	課長	氏名	高木 哲也	連絡先(内線)	1290

平成28年度 事務事業評価シート

○実施計画

事務事業名	土地区画整理事業		担当課	まちづくり推進課		
概要	対象:	事業予定地所有者、市外からの移住定住者			体系	B-6-2-5
	手段:	測量・事業計画及び定款の作成支援等 換地設計・工事・換地計画等に対する支援、補助金交付			新/継	継続
	意図:	生活環境を向上させ、人口増加を図るとともにコンパクトシティ化に向けて、土地の有効活用を図る。			区分	ハード
年度別事業内容	平成27年度(1年次)		平成28年度(2年次)		平成29年度(3年次)	
	○組合設立準備会への支援(調査設計)		○土地区画整理組合への支援(調査設計)		○主要区画道路整備事業 ○区画整理補助金	
財源	決算額	(千円) 42,196	予算額	(千円) 18,093	計画額	(千円) 30,000
	計画・設計業務委託料	39,820	設立認可届出書作成、再権利調査等	18,093	主要区画道路 詳細設計	0 4,400
	浸透試験調査業務委託料	2,376			区画整理補助金(調整池用地費)	30,000
	特定	0 一般 42,196	特定	0 一般 18,093	特定	0 一般 30,000
					4,200	30,200

○評価指標

評価指標	H27			H28			H29		
	中間値 (事中評価)	実績値 (事後評価)	目標値	中間値 (事中評価)	実績値 (事後評価)	目標値	中間値 (事中評価)	実績値 (事後評価)	目標値
区画整理事業の進捗率	3	3	3	4		-4 6			16 15

○事中評価

評価視点												今後の方向性						
妥当性				有効性				効率性				成果の方向性	拡充		④	②	①	
1	2	③	4	1	2	③	4	1	②	3	4		現状維持		③	レ	⑤	
低い	やや低い	やや高い	高い	低い	やや低い	やや高い	高い	低い	やや低い	やや高い	高い		縮小		⑥			
総合評価判定				総合評価				C					休廃止	⑦				
A:計画どおりに事業を進めることが適当 B:事業の進め方の改善の検討 C:事業規模・内容・主体の見直し検討 D:事業の統合・休廃止の検討												皆減	縮小	現状維持	拡大	コスト投入の方向性		
当年度開始後、約6ヶ月が経過し新たに生じた問題等		H28.3月に全地権者の同意を得たため、6月に組合設立認可申請を行った。10月事業認可、11月組合設立総会の予定である。 区画整理組合は、財源確保のため、事業資金となる保留地を早急に売却する必要がある。また、造成工事着手に向け、早期に仮換地案を地権者へ示し、承諾を得ることが求められている。																
新年度の予算要求事項(改革・改善案)		事業が開始されるため、平成29年度以降は区画整理組合への補助金と市整備分の主要区画道路築造が主になる。 区画整理組合が、地区の土地利用を考えたらうで、全体の道路詳細設計を行った方が効率的であるため、市整備分の詳細設計について精査を行う。																
第1次評価コメント		要求どおりとする。																
第2次評価コメント		-																

○事後評価

区分	年間(4月~3月)	
取組内容		
成果		
課題		

作成担当者	部課等	建設事業部まちづくり推進課	職名	主任	氏名	濱 泰之	連絡先(内線)	1293
最終評価者	部課等	建設事業部まちづくり推進課	職名	課長	氏名	高木 哲也	連絡先(内線)	1290

平成28年度 事務事業評価シート

○実施計画

事務事業名	都市緑化推進事業			担当課	都市計画課							
概要	対象: 市民及び市外からの来訪者			体系	B-6-2-5							
	手段: 緑化樹の交付、開発緑地の維持管理			新/継	継続							
	意図: 美しい景観にあふれた、うるおいのあるまちづくりを行う。			区分	ハード							
年度別 事業内容	平成27年度(1年次)		平成28年度(2年次)		平成29年度(3年次)							
	○開発緑地における危険遊具の改修 ○緑化樹の配布		○開発緑地における危険遊具の改修 ○緑化樹の配布		○開発緑地における危険遊具の修繕 ○緑化樹の配布							
財源	決算額 (千円)		予算額 (千円)		計画額 (千円)							
	2,777		3,048		予算対応							
	特定	0	一般	2,777	特定	0	一般	3,048	特定		一般	

○評価指標

評価指標	H27			H28			H29		
	中間値 (事中評価)	実績値 (事後評価)	目標値	中間値 (事中評価)	実績値 (事後評価)	目標値	中間値 (事中評価)	実績値 (事後評価)	目標値
緑化樹の配布数	—	364	—	179		300			200

○事中評価

評価視点												今後の方向性						
妥当性				有効性				効率性				成果の 方向性	拡充		④	②	①	
1	2	③	4	1	②	3	4	1	②	3	4		現状維持		③	⑤		
低い	やや低い	やや高い	高い	低い	やや低い	やや高い	高い	低い	やや低い	やや高い	高い		縮小		⑥	ㄥ		
総合評価判定				総合評価				C					休廃止	⑦				
A: 計画どおりに事業を進めることが適当 B: 事業の進め方の改善の検討 C: 事業規模・内容・主体の見直し検討 D: 事業の統合・休廃止の検討												皆減	縮小	現状維持	拡大	コスト投入の方向性		
当年度開始後、約6ヶ月が経過し新たに生じた問題等		緑地協定を締結している地区からの樹木の交付申請が5本と申請が少ない。 地元管理で協定を締結しているところでも、高齢等の理由から、管理ができず市にせんだを依頼してくる箇所が出てきている。																
新年度の予算要求事項(改革・改善案)		緑地協定を締結している地区を対象にチラシなどを配布してPRをし、緑豊かなまちなみを造る。 危険遊具の更新がほぼ完了したが、ライフサイクルコストを意識した維持管理を実施するため、遊具の適切な修繕が必要であるため投入コストを縮小して事業を進めていく。																
第1次評価コメント		要求どおりとする。																
第2次評価コメント		—																

○事後評価

区分	年間(4月~3月)		
取組内容			
成果			
課題			

作成担当者	部課等	建設事業部都市計画課	職名	主事	氏名	田村 洸介	連絡先(内線)	1244
最終評価者	部課等	建設事業部都市計画課	職名	課長	氏名	塩原 恒明	連絡先(内線)	1240



平成28年度 事務事業評価シート

○実施計画

事務事業名	都市計画道路見直し等策定事業				担当課	都市計画課						
概要	対象:	市民全体				体系	B-6-2-5					
	手段:	住民意見を反映しつつ、見直し候補路線案に基づく路線ごとの変更案の策定及び都市計画の変更を行う。				新/継	継続					
	意図:	計画的・効率的・効果的な都市計画道路網の構築を図る。				区分	ソフト					
年度別事業内容	平成27年度(1年次)			平成28年度(2年次)			平成29年度(3年次)					
	○変更案策定(3路線) ○都市計画調書作成(2路線)			○変更案策定(2路線) ○都市計画調書作成(1路線)			○変更案策定(2路線) ○都市計画調書作成(3路線) ○都市計画手続き(3路線)					
事業費	決算額	(千円)	6,394	予算額	(千円)	4,700	計画額	(千円)	5,100	0		
			6,394	変更案作成		4,000	予算対応(7,500千円)		3,000			
				都市計画図書作成		700	都市計画図書作成		2,100			
	特定	3,410	一般	2,984	特定	2,200	一般	2,500	特定	1,600	一般	3,500

○評価指標

評価指標	H27			H28			H29		
	中間値 (事中評価)	実績値 (事後評価)	目標値	中間値 (事中評価)	実績値 (事後評価)	目標値	中間値 (事中評価)	実績値 (事後評価)	目標値
変更案を策定した路線数	3	3	3	0		1			0
都市計画変更を完了した路線数									3

○事中評価

評価視点												今後の方向性									
妥当性				有効性				効率性				成果の方向性	拡充		④	②	①				
1	2	3	④	1	2	③	4	1	②	3	4		現状維持		③	⑤					
低い	やや低い	やや高い	高い	低い	やや低い	やや高い	高い	低い	やや低い	やや高い	高い		縮小		⑥						
総合評価判定				総合評価									休廃止	⑦							
A:計画どおりに事業を進めることが適当 B:事業の進め方の改善の検討 C:事業規模・内容・主体の見直し検討 D:事業の統合・休廃止の検討												<b>B</b>					コスト投入の方向性				
当年度開始後、約6ヶ月が経過し新たに生じた問題等		都市計画道路の必要性は概ね理解されており、地元からは見直しよりも早期事業着手を要望されている。また、再度の見直しをしないため早期に事業完了する必要があるが、現在検討している学校通線、片丘通線は実施の目処が立っていない。さらに財源として見込んでいた交付金が29年度からは不交付となることが確定した。																			
新年度の予算要求事項(改革・改善案)		現在検討中の2路線については、事業化とセットで見直し案を検討すべきとの指摘があるため、今年度の見直し事業は法線の調査、比較に留め、具体的な変更案の作成、地元調整などは他路線の整備が概ね進み、当路線の整備の目処が立ったところで改めて行いたい。また、見直しを済ませた路線については施策道路として集中投資を行い早期に事業完了させる必要がある。																			
第1次評価コメント		要求どおりとする。																			
第2次評価コメント		—																			

○事後評価

区分	年間(4月~3月)									
取組内容										
成果										
課題										

作成担当者	部課等	建設事業部都市計画課	職名	技師	氏名	二茅 将大	連絡先(内線)	1244
最終評価者	部課等	建設事業部都市計画課	職名	課長	氏名	塩原 恒明	連絡先(内線)	1240

平成28年度 事務事業評価シート

○実施計画

事務事業名	都市計画道路整備事業		担当課	都市計画課			
概要	対象	市民及び市外からの来訪者			体系	B-6-2-5	
	手段	重点的に整備する路線・区間等を明確にし、効率的・効果的な事業を行う。			新/継	継続	
	意図	計画的・効率的・効果的な都市計画道路網の構築を図る。			区分	ハード	
年度別事業内容	平成27年度(1年次)		平成28年度(2年次)		平成29年度(3年次)		
	○広丘東通線(野村地区) ○広丘東通線(吉田地区) ○広丘東通線(高出地区) ○広丘西通線(大門地区)		○原新田野村通線 ○広丘東通線(野村地区) ○広丘東通線(吉田地区) ○広丘東通線(高出地区) ○広丘西通線(原新田地区)		○広丘東通線(高出地区) ○広丘西通線(原新田地区)		
財源	決算額	(千円)	181,416	予算額	(千円)	626,140	
			181,416			626,140	
				(H29分前倒し及び繰越)	52,000		
	特定	175,077	一般	6,339	特定	580,200	
				一般	45,940	特定	85,500
					一般	3,900	
					計画額	(千円)	0
							89,400
					広丘東通線		0
							81,900
					広丘西通線		7,500
							0
							0

○評価指標

評価指標	H27			H28			H29		
	中間値 (事中評価)	実績値 (事後評価)	目標値	中間値 (事中評価)	実績値 (事後評価)	目標値	中間値 (事中評価)	実績値 (事後評価)	目標値
都市計画道路 整備率	67	67	67	67		69			70

○事中評価

評価視点												今後の方向性					
妥当性				有効性				効率性				成果の方向性	拡充		④	②	①
1	2	③	4	①	2	3	4	1	2	③	4		現状維持		③	⑤	
低い	やや低い	やや高い	高い	低い	やや低い	やや高い	高い	低い	やや低い	やや高い	高い		縮小		⑥	レ	
総合評価判定				総合評価									休廃止	⑦			
A:計画どおりに事業を進めることが適当 B:事業の進め方の改善の検討 C:事業規模・内容・主体の見直し検討 D:事業の統合・休廃止の検討				C								皆減 縮小 現状維持 拡大					
当年度開始後、約6ヶ月が経過し新たに生じた問題等				・広丘東通線(吉田地区)について、用地が確保できなかったため、事業を中止とした。 ・広丘東通線(高出地区)について、今年の補助金が国より追加補正で対応する可能性がある。													
新年度の予算要求事項(改革・改善案)				・広丘東通線(高出地区)について、来年度は道路事業で実施する。													
第1次評価コメント				広丘東通線(高出地区)はH28国補正予算を活用し、前倒すこと。 広丘西通線(原新田地区)は道路局財源確保の目的が立たないため、要求通り一時凍結とする。													
第2次評価コメント				特になし													

○事後評価

区分	年間(4月～3月)	
取組内容		
成果		
課題		

作成担当者	部課等	建設事業部都市計画課	職名	技師	氏名	邑上 裕樹	連絡先(内線)	1242
最終評価者	部課等	建設事業部都市計画課	職名	課長	氏名	塩原 恒明	連絡先(内線)	1240

平成28年度 事務事業評価シート

○実施計画

事務事業名	立地適正化計画策定事業			担当課	都市計画課				
概要	対象:	市民全体			体系	B-6-2-5			
	手段:	GIS等を用いて可視化を行うことで、市の現状や課題を具体的に抽出する			新/継	新規			
	意図:	主に市街化区域内の人口密度を維持する計画等を検討することで、人口減少社会にも対応できる生活サービスの維持・確保を目指す。			区分	ソフト			
年度別事業内容	平成27年度(1年次)			平成28年度(2年次)			平成29年度(3年次)		
				○基礎調査業務			○立地適正化計画の策定 ・都市機能誘導区域の設定等		
事業費	決算額 (千円)			予算額 (千円)			計画額 (千円)		
				9,600			9,600		
	基礎調査業務委託料			9,600			予算対応(7,500千円)		
	特定	一般		特定	0	一般	9,600	特定	一般

○評価指標

評価指標	H27			H28			H29		
	中間値 (事中評価)	実績値 (事後評価)	目標値	中間値 (事中評価)	実績値 (事後評価)	目標値	中間値 (事中評価)	実績値 (事後評価)	目標値
庁内検討会議の開催数	—	—	—	2		4			4

○事中評価

評価視点												今後の方向性							
妥当性				有効性				効率性				成果の方向性	④		②		①		
1	2	3	④	1	2	③	4	1	2	③	4		現状維持	③	⑤				
低い	やや低い	やや高い	高い	低い	やや低い	やや高い	高い	低い	やや低い	やや高い	高い		縮小	⑥					
総合評価判定				総合評価				C					休廃止	⑦					
A:計画どおりに事業を進めることが適当 B:事業の進め方の改善の検討 C:事業規模・内容・主体の見直し検討 D:事業の統合・休廃止の検討												コスト投入の方向性							
当年度開始後、約6ヶ月が経過し新たに生じた問題等				立地適正化計画を作成するために必要な基礎データのGIS化については本事業内で行えるが、本業務とは直接関係はないが、各種施策の検討など全庁的な利用にあたっての必要なデータのGIS化や、基礎データの更新に伴うGISデータの修正は継続的に必要である。また、作成されたGIS化データによる分析(重ね図用のレイヤー)の作成も現状では職員が自ら作成することができない。															
新年度の予算要求事項(改革・改善案)				現在、立地適正化計画の策定の必要性を検討するため、基礎データの可視化を行い都市構造上の課題の分析を行っている。コンパクトシティ化を推進するにあたり、抽出された課題解決のための施策・誘導方針の検討をしつつ、目指すべき都市構造を検討し、居住機能や福祉・医療・商業等の都市機能の立地、公共交通の充実等に関する包括的なマスタープランである立地適正化計画について、来年度より国の交付金を活用しながら策定を進めていきたい。															
第1次評価コメント				調整区域や都市計画区域における集落機能の維持方策と整合を図りながら、検討を進めること。															
第2次評価コメント				企画政策部長査定の通り															

○事後評価

区分	年間(4月~3月)		
取組内容			
成果			
課題			

作成担当者	部課等	建設事業部都市計画課	職名	主事	氏名	田村 洸介	連絡先(内線)	1244
最終評価者	部課等	建設事業部都市計画課	職名	課長	氏名	塩原 恒明	連絡先(内線)	1240

平成28年度 事務事業評価シート

○実施計画

事務事業名	全国都市緑化フェア事業			担当課	都市計画課			
概要	対象:	市民全体			体系	B-6-2-5		
	手段:	長野県、松本市、大町市、塩尻市及び安曇野市並びに(公財)都市緑化機構が主催者となり、H31年に全国都市緑化フェアを開催する。			新/継	新規		
	意図:	都市緑化に関する意識高揚や知識普及等を図ることにより都市緑化を推進し、緑豊かな居住環境の向上に寄与する。			区分	ソフト		
年度別事業内容	平成27年度(1年次)			平成28年度(2年次)			平成29年度(3年次)	
				○基本構想策定(負担金)			○基本計画策定	
事業費	決算額 (千円)			予算額 (千円)			計画額 (千円)	
				926			926 予算対応(8,000千円)	
	特定	一般		特定	0	一般	926	特定

○評価指標

評価指標	H27			H28			H29		
	中間値 (事中評価)	実績値 (事後評価)	目標値	中間値 (事中評価)	実績値 (事後評価)	目標値	中間値 (事中評価)	実績値 (事後評価)	目標値
連絡会議・実行委員会事務局会議の開催				5		12			12

○事中評価

評価視点												今後の方向性				
妥当性				有効性				効率性				成果の方向性	拡充	④	②	①
1	2	③	4	1	②	3	4	1	2	③	4		現状維持	③	⑤	
低い	やや低い	やや高い	高い	低い	やや低い	やや高い	高い	低い	やや低い	やや高い	高い		縮小	⑥		
総合評価判定				総合評価									休廃止	⑦		
A: 計画どおりに事業を進めることが適当 B: 事業の進め方の改善の検討 C: 事業規模・内容・主体の見直し検討 D: 事業の統合・休廃止の検討				C								皆減	縮小	現状維持	拡大	
												コスト投入の方向性				
当年度開始後、約6ヶ月が経過し新たに生じた問題等		フェアの開催にあたっては、官民協働で実施する必要があるため、実行委員会の人選・設立が課題となっている。 H29年度以降には、負担割合に応じた職員派遣が必要になる。														
新年度の予算要求事項(改革・改善案)		H29年度には基本計画策定業務委託及び実行委員会組織の立ち上げ等を行う。協定書に基づく負担割合に応じた負担金が必要となる。														
第1次評価コメント		計画的な積立等により事業費の平準化を図ること。														
第2次評価コメント		広報宣伝・誘客効果のバランスを見て、準備を進めること。														

○事後評価

区分	年間(4月~3月)		
取組内容			
成果			
課題			

作成担当者	部課等	建設事業部都市計画課	職名	係長	氏名	米山 進	連絡先(内線)	1243
最終評価者	部課等	建設事業部都市計画課	職名	課長	氏名	塩原 恒明	連絡先(内線)	1240